

事例7 第3学年 内容項目：D 生命の尊さ

- | | |
|--------------------------------|--------------------------------|
| ・体験の想起からねらいとする道徳的価値への意識付けを図る導入 | ・教材提示の工夫 |
| ・主人公に共感させる発問 | ・主人公の気持ちの変化に気付かせる発問 |
| ・視覚に訴える板書 | ・付箋を活用しながら道徳的価値についての考えを深める話し合い |
| ・考えを広げたり、深めたりする補助発問 | ・自分を見つめる書く活動 |
| ・ゲストティーチャー（ビデオ映像）の活用 | |

1 主題名 命の重さ

- 2 **ねらい** 「他の生命をいただく」とはどのようなことかについて考えることを通して、生きとし生けるものの生命の尊さに気付き、生命は他の生命によって生かされていることに感謝する心情を育てる。

教材名 「忘れられないご馳走」（出典：中学生の道徳「明日への扉3年」学研）

3 主題設定の理由

- (1) **ねらいや指導内容について**

本時は、内容項目「生命の尊さについて、その連続性や有限性なども含めて理解し、かけがえのない生命を尊重すること。」に関するものである。第1学年では、小学校段階からの生命のかけがえのなさについての理解を一層深めるとともに、人間の生命の有限性だけでなく連続性を考えさせている。学年が上がるにつれて、自分が今ここにいることの不思議（偶然性）や社会的関係性などの側面から、より多面的・多角的に捉えて考えさせることによって、生命の尊さを理解し、かけがえのない生命を尊重することについて、より深く学ぶことへとつながっていく。

人間は誰しも、生命は大切と分かっていても、互いに支え合っていることや過去から脈々と受け継がれている連続性などに気付かないことが多い。そこで、かけがえのない生命について考えるときには、多面的・多角的に生命を考えていくことが重要である。

指導に当たっては、まず、人間の生命のみならず身近な動植物をはじめ、生きとし生けるものの生命の尊さについて考えを深めるとともに、多くの生命のおかげで今の自分があるというありがたさに思いを寄せる必要がある。そして、かけがえのない生命の尊さに気付くことが、互いの生命を尊重することにつながっていくと考える。

- (2) **これまでの学習状況及び生徒の実態について**

本校では、昨年度までの3年間、人権教育を重点に生徒の育成に取り組んできた。生命尊重への意識の高まりがアンケート結果より検証できている。生徒たちは、様々な学習や体験を通して、生命は大切であるということは理解している。さらに、今までの道徳科の授業において、生命の有限性にも視点を置いて考えることができた。しかし、穏やかな日常生活の中にある生命の尊さや他の生命への感謝の気持ちをもつことへの思いは十分ではない。与えられている衣食住について、何の疑問ももたずに当たり前のこととして受け入れている。実際、給食の残食はほとんどないが、好きなものはたくさん食べるという生徒も少なくない。そこで、改めて生命の尊さについて考え、特に、「他の生命をいただくこと」で自分自身が生かされているという感謝の心情を育みたい。

- (3) **教材の特質や活用方法について**

本教材は、自分が育てたヤギを食べる、つまり、ヤギの生命をいただくということを経験した「私」が他の生命をいただくことで自分の生命があることに気付きはじめた様子を通して、ねらいに迫るものである。食べるためと分かっていても、育てていくうちに愛着がわいたヤギを、「私」がヤギ汁として食べたことを通して、「生命が受け継がれていること」、「生命のかけがえのなさ」などをより深く考え始める。それまで何も考えず食べてきた生き物には、生命があったということを改めて考えるとともに、生命のかけがえのなさ、人が生きるための生命のつながりを理解するのに適した教材となっている。

主に次のことを基に話し合うこととする。


- ①ヤギ汁を口にした「私」の思い。

「食べる」ということは、他の生命をいただき、自分を生かす行為であることを考えさせる。

- ②満ち足りた気分になった「私」の思い。

他のかけがえのない生命への感謝と、生命のつながりに気付かせる。

4 学習指導過程

段階	学習活動と主な発問	予想される生徒の反応	・指導上の留意点☆評価の視点
導入	<p>1 動植物を育てた経験を基に、その際に抱いた思いを互いに交流する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・動物や植物を育てた時の気持ちを思い出してみましよう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・かわいくてたまらない。 ・癒やされる。 ・世話は大変。 ・名前を付けて、家族の一員になっていた。 ・育つのがうれしかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教材への関心を深める。 ・動植物への愛着の気持ちを思い起こさせ、本時への意識付けとする。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p style="text-align: center;">体験の想起からねらいとする道徳的価値への意識付けを図る導入</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px;"> <p>T：（家でペットを飼っている人を挙手させる） 飼っているペットと過ごしている時はどんな気持ちですか？</p> <p>S：かわいい。</p> <p>S：自分の中に愛が湧いてくる。</p> <p>S：一緒にいると癒される。</p> <p>S：名前を呼ぶと自分の家族みたい。</p> </div>			
展開	<p>2 教材「忘れられないご馳走」を聞き、「私」が気付いた生命の尊さについて話し合う。</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・ヤギの動画を提示し、沖縄ではヤギを食する風習があることを簡単に説明する。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p style="text-align: center;">教材提示の工夫</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px;"> <p style="text-align: center;">沖縄県多良間島のヤギの様子（「ヤギ肉・動画で見るニッポンみちしる～新日本風土記 アーカイブス～」より）を見せて、教材のイメージを豊かにさせる。</p> </div> <div style="float: right; text-align: center;">  </div>			
	<p>(1)二日間、部屋に閉じこもっていた「私」がヤギ汁を食べるように言われた時、どのようなことを考えたのでしょうか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・かわいがっていたのに、なぜ殺してしまったのか。 ・助けられなくて、ごめんなさい。 ・食べることは辛い。 ・楽しかったことが思い出されて、食べる気がしない。 ・ジョセフィーヌの死を受け入れるしかない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「両親」とのヤギに対する意識の違いから、二日間どのような気持ちで過ごしていたのかを想像させる。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p style="text-align: center;">主人公に共感させる発問</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px;"> <p>T：二日間部屋に閉じこもっていた「私」は、ヤギ汁を口にした時、どのようなことを考えたでしょう？</p> <p>S：かわいがっていたのに、食べたくない。</p> <p>S：かわいがって育てていたのに、ごめんね。</p> <p>S：楽しかった思い出があるから、食べるのは嫌だ。</p> </div> <div style="float: right; border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>育てているヤギを食べることにに関して、抵抗感を抱く主人公に共感させる。</p> </div>			

S : 申し訳ない。

T : 何に対して申し訳ないのですか？

S : ジュセフィーヌを助けられなかったこと。

S : 悲しい気持ちだけれど、おいしく感じてしまうことが、死んだヤギに悪いような気がする。

T : 「私」のお父さんやお母さんが謝りに来なかったことに対しては、どのように感じていますか？

S : かわいがって育てていたのを知っていたのに、なぜ何も言わないで殺してしまったのかと思っている。

S : 悲しいけれど、仕方ない。

S : 他のヤギにしてくれたら良かった。

いたたまれない気持ちの主人公に共感させるための補助発問をする。

(2) 「私」がヤギ汁を全部平らげられたのはなぜでしょう。

- ・お腹がすいていた私にとって、ジョセフィーヌの死の悲しみに反しておいしく感じられたから。
- ・ジョセフィーヌの大事な命だと思い、無駄にしたくなかったから。
- ・叔父から「食べる」という行為の真の意味を教わったから。

- ・自ら飼育したヤギを食べるという経験をした「私」は、それが自分の体の成長につながっているという感覚を得たことを押さえる。
- ・悲しい気持ちでやぎ汁を食べ始めた「私」が、食べることの意味について考えるようになっていくことに気付かせる。

主人公の気持ちの変化に気付かせる発問

T : 「私」がヤギ汁を全部平らげられたのはなぜでしょうか。

S : 残したらジュセフィーヌに悪いから。

S : お腹が空いていたから。

S : 美味しかったから。

T : お腹が空いていたり、美味しかったりしたから全部平らげたのでしょうか。

S : ヤギ汁を食べて自分の力にしたかったから。

S : 生きていくため。

S : 命の重みを感じたから。

S : 叔父の言葉に納得したから。

単に食欲を満たすことや味への満足を越えた生命の尊厳に目を向けさせた。

(3) 私は「ヤギ汁」を食べたことでどのようなことに気付いたのでしょうか。
(中心発問)

- ・他の命をいただくことで、自分の成長があること。
- ・私たちが口にするものは、すべて大事な命がある特別なものだという事。
- ・一人の力で生きているのではないということ。
- ・命の有り難さや食べ物をいただくことへの感謝。

- ・グループ毎に、付箋を活用し、共通点相違点を確認させる。
 - ・友達の発言に対して感じたことや考えたことを伝え合い、全体に発表させる。
 - ・イラストの絵を効果的に使い、ヤギがヤギ汁となって人の口に入ることを視覚的にも示す。
- ☆他の生命をいただく体験をした「私」を通して、生命の尊さや生命の連続性について多様に考えている。(付箋・発言)

視覚に訴える板書

ヤギの命が人の手に渡ることをイメージさせた。



付箋を活用しながら道徳的価値についての考えを深める話し合い

T：私は「ヤギ汁」を食べたことでどのようなことに気付いたのでしょうか。
(自分の考えを付箋に書いた後、グループで読み合い、友達の考えに対して感じたことを伝え合う。)

<グループでの話し合い 例>

～S1の発言に対して～

S1：今まで命を軽く見ていたことやジョセフィーヌは自分にとってとても大切な存在だったことに気付いたと思う。

S2：ジョセフィーヌが「食べる」ということを考えるきっかけになったと思う。

S3：ジョセフィーヌは自分の中で生きているから、忘れられないご馳走なんだ。

S4：だから、恩返しをしたいと思っていると思う。

～S2の発言に対して～

S2：普段店で売られている生き物を育てている人たちも、こんなに愛情を注いでいたということに気付いたと思う。

S3：今まで食べてきた食べ物も、誰かが愛情込めて育てたものだったことが改めて分かったんだと思う。

S4：人間が生きていくためには、他の動物が犠牲になってしまう。

S1：大切な命を犠牲にして食べていたんだ。

S2：生き物を食べるということは、誰かが悲しい思いをしていることに気付いたんだと思う。

～S3の発言に対して～

S3：人は誰かが一生懸命育ててくれた生き物の命に助けられていることを考えて、感謝して食べないといけない。

S1：食べられる側の命があるから、自分たちは生きていけるということに気付いて、命のありがたさを感じたのだと思う。

S2：売られているヤギも命の重さは同じなんだ。

S4：今までは、売られているからと軽く感じていたけれど、命の重さは「私」が飼っていたジョセフィーヌと同じなのだから、命をいただくことへの感謝をしなければいけない。

(グループごとに代表者が4人の考えを発表し、全体で考えを共有し合う。)

～全体での話し合い～

T：発表を聞いて、改めて考えたことや感じたことはありますか。

S：「食べる」ということは命をいただくということで、深く考えなければいけないことだと思った。

S：食べ物になる動物たちへの思いを考えることができた。

S：最初は、生き物を食べることはかわいそうだと思っていたけれど、自分が食べているものにも命があることに気付かされた。みんなの話を聴いて、ヤギや食べ物の命だけでなく、自分の命のことも考えてしまった。



<付箋 例>

今まで自分は命を軽く見ていたこと。
自分はすごくそのヤギをかわいがっていて、自分にとって大切だと気づいたこと。
etc
「食べる」と考えるきっかけ
自分の中で生きている。ご馳走
恩返しをしたい

点線より下に友達の考えをメモしたり、改めて考えたことを書いたりしている。

<p>(補助発問)</p> <ul style="list-style-type: none"> 私が「満ち足りた気分になった」のは、なぜでしょう。 	<ul style="list-style-type: none"> 命の大切さを受け止めることができたから。 他の「命」を受け継ぎ、前向きな気持ちになったから。 「私」に力をくれるものだから。 	<ul style="list-style-type: none"> ヤギ汁を食べることに抵抗感のあった「私」が「満ち足りた気分」になった理由を考えさせる。 食べられる動物の命を尊び、感謝すると同時に、命が次へつながるという生命の連続性についても、補助発問を利用して捉えさせる。
---	--	---

考えを広げたり、深めたりする補助発問

T : 私が「今まで食べた生き物の命で生きているという実感が私を満ち足りた気分にする」と言ったのは、なぜでしょう？

S : 自分が生きていられるのは、いろんな動物や魚が私の栄養になってくれているおかげで、一人で生きているのではなく、いろんな人や動物のおかげで生きていられることがわかったからだと思う。

S : ジョセフィーヌは死んだけれど、自分が今も生かされていると感じたのだと思う。

T : 「満ち足りた」というのはどのような気持ちなのでしょう。

S : 満足している。

S : 力が湧いている。

T : 「私」はどのようなことに、満足し、力が湧いているのでしょうか。

S : 生き物の命が、私たちの生きる源になっていることに気付いた。

S : 命をいただいたのだから、その分頑張らないといけないと思った。

S : ジョセフィーヌのような動物たちが「私」の体を作ってくれているし、「命」をもらって「私」が生きているのだから、しっかりと生きようと思った。

S : 今まで食べた生き物に感謝して、これからも命を大切に生きていこうと思った。

S : 命が命を引き継いでいくということに気付いた。

<p>3 自己を見つめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 今日の学習を振り返って、「自分の命と他の命との関わり」について考えたことを書きましょう。 	<ul style="list-style-type: none"> 今までは、当たり前のように思っていた食事も誰かが大切に育てていた命をいただいていたということを改めて考えることができた。たくさんの命の分まで頑張って生活していきたい。 自分が家族のように育てている動物と同じように、命があるものを食べて私たちは生きている。だから、生かされているということに感謝の気持ちをもって生活していきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 書く活動を取り入れ、自分を見つめさせる。 自分たちが抵抗感なく、豚肉や鶏肉を食べていることにも思いを及ぼせる。 ☆これまでの体験を想起しながら、生命の尊さについて考えを深めている。 <p>(ワークシート)</p>
--	--	--

自分を見つめる書く活動

私は今日の食事に含まれていた具材もただの食物
 としか考えていませんでした。この物語のようにその
 食物の幅を広げ、動物と見て考えると、何も考え
 ずに食べていた自分が恥かしくなりました。その
 動物にも誰かに育ててもらった愛情があって、尊い
 命であることもとても感じました。物語に出てき
 たヤギも食やられるために生きようと思っていた
 訳ではないけど、人間はその命をもらうことで生
 きることができているんだなと思いました。

○命への愛情
 どの命も誰かの愛情で育
 てられていたことへの気
 付き。

○命への感謝
 自分以外の他の動物の
 命の大切さを実感。

今日は、肉の料理や魚の料理と何の抵抗もな
 く食べていたが、今日の授業を通じて、改めて
 命に感謝しなければ食べたくも思わなかった。
 私たちが健康に、元気に、生活できているの
 は、たいてい人の命や動物たちの命があることであ
 ると気付く。今日学んだ命の尊さを、心か
 ら忘れたいけど、生活していきたいと思ってる。

今日の授業で、私は今までにたくさんの生き物の命をもらっ
 て生きてきたんだと深く考えることができました。それとともに、命
 がある限り私は生きながら、うれしいこともつらいこともたくさん
 いろいろなことを経験するんだなと思いました。私たちが
 食べることに伴って命を奪われるとヤギ豚などの動物たちのこ
 とを忘れず、日々感謝して食べ、その動物たちの命も精
 一杯生きなくてはいけないと考えられました。命はとても
 大切なものだけど、一歩生きる道を間違えるだけで簡単にな
 ってしまうものだと思います。そんなことがないがために、命が尽きる
 まで人として生きることが船岡の使命なのかなと思いました。

○生かされていること
 への感謝

○自分の命を精一杯生
 きていくという決意

終末

4 ゲストティーチャーの話
 を聞く。(ビデオ映像)

・長年、畜産農家をしている方か
 ら、育てていく喜びや業者へ
 送り出す時の寂しさ、多くの
 人のために大切に育てている
 という話を聞き、ねらいとす
 る道徳的価値を印象付ける。

ゲストティーチャー（ビデオ映像）の活用

GT：1年中、朝5時から起きて世話をしていた。
 元気に育つのがうれしかったし、具合が悪
 くならないように、いつも気にかけていた。
 愛情がなければ生きものは育たない。自分
 は仕事として育ててきたが、一つ一つの命
 をとても大切に思ってきた。業者が来て、
 牛を車に乗せる時は、自然と涙が出た。
 でも、自分が育てた生きものの命が、たかさんの人の成長につながり、喜ばれると
 信じて見送ってきた。人間が一番偉いと思いがちだけれど、人間だって死ぬば土
 に帰る。命というものはつながっているのだと思う。





5 他の教育活動との関連

- ・ 道徳教材「余命ゼロ 命のメッセージ」では、自他の生命の大切さを自覚し、前向きに生きる心情を育てるようにする。また、道徳教材「あなたの命は誰のもの」では、人間の生命の有限さやかけがえのなさについて考え、生命軽視の軽はずみな言動や、いじめなどの社会問題についても考えることができるようにする。
- ・ 家庭科の食文化の学習の一環として、学校給食のメニューについて、どんなものから作られているかを自分たちで考えたり、調べたりして、自らが食べる食事をより深く考え、身近な日々の暮らしの中にも、かけがえのない生命について考える機会は、数多くあることに気付くことができるようにする。
- ・ 理科の「遺伝子の規則性」の単元において、親から子へ、子から孫へと遺伝子が受け継がれていくことを学習し、生命の連続性について科学的にも考えることができるようにする。

6 評価の視点

【物事を多面的・多角的に考えている様子】

- ・ 主人公の体験を通して、「他の命をいただくこと」について考え、話し合っている。

【道徳的価値についての理解を自分との関わりで深めている様子】

- ・ 生命の尊さについて有限性だけでなく、連続性にも気づき、自分との関わりで考えている。

7 考察

(1) 道徳科の目標に示された学習活動

① 多面的・多角的に考える学習

発問(1)で、愛情をかけて育ててきたヤギを食べることになった主人公の気持ちを考えさせた際には、両親の行動に対する気持ちについても問い返しをした。そうすることで、主人公自身だけでなく、周囲の人との関わりにも視点を置くことができた。

また、発問(2)のヤギ汁を平らげた時の気持ちにおいては、ヤギの死を受け入れるきっかけが、叔父の言葉であったことに思いが及んだ生徒が多かった。そして、他の命をいただくことはどのようなことかについて、様々な視点で考えていた。

また、中心発問では、小グループの話合いを行った。付箋を活用して互いの考えの共通点や相違点などを確認した後、友達の考えに対して感じたことを伝え合うことによって、自分の考えを広げたり、深めたりすることができた。似たような発言もあったが、自分の言葉で伝えることは、微妙な考え方の違いに気付く要因でもあった。そして、小グループの話合いを全体に広げることで、生徒の視野が広がり、多面的・多角的に考えることができた。

さらに、補助発問を活用したことで、命をいただくその生き物への感謝だけでなく、これからの自分自身の生き方にも考えをつなげていくことができた。

② 自分との関わりで考える学習

終末で、自分の命と他の命との関わりについて感じたことや考えたことをまとめさせた。「今まで食べることにあまり考えていなかった。」或いは「何の疑問も持たずに食べていた。」

と自分自身を振り返った生徒たちが、話し合いを通じて、今まで食べてきた生き物のおかげで生きていられるという感謝などに気付くことができた。生徒たちは、主人公の心の変容を通して「生命の尊さ」を改めて考えるとともに、今後の自分自身の生き方について考えを深めることができた。

(2) 視点☆に基づく本時の評価

【物事を多面的・多角的に考えている様子】

☆他の生命をいただく体験をした「私」を通して、生命の尊さや生命の連続性について多様に考えている。

「ヤギ汁」を食べることに最初は抵抗のあった主人公の心の変容していく過程を振り返りながら、小グループで話し合う様子から評価を行った。生徒たちは、付箋を活用して互いの考えを知るとともに、その考えに対して感じたことを伝え合うことができていた。友達からの感想を付箋にメモし、考えを深めていた生徒もいた。また、補助発問や問い返しを通して、生命の尊さだけでなく、命のつながりにも考えが及んでいた生徒が多かった。

【道徳的価値についての理解を自分との関わりで深めている様子】

☆これまでの体験を想起しながら、生命の尊さについて考えを深めている。

本時の学習を通して、自分のこれまでの生活を振り返り、「生命の尊さ」について「自分の命と他の命との関わり」で捉えて記述しているかを評価した。特に、今まで何の抵抗感もなく生き物を食べていたことに愕然としたという思いから、「他の命をいただくことへの感謝」「命には愛情がかけられていること」「いただいた命を無駄にせず、しっかりと生活していこう」などの記述が多く見られた。ねらいとする道徳的価値を理解し、命のつながりを実感していることが伝わってきた。

(3) その他

導入で、家庭で動物を飼っている生徒にその動物への思いを語らせることで、主人公「私」への感情移入がしやすくなったと考えている。また、教材の範読では、教材CDを参考にして、沖縄の方言をそのままに読むことで、主人公を取り巻く沖縄の風土や文化のイメージをもたせることができた。

板書については、似たような考えでも気持ちには細やかな違いがあることに気付かせるため、生徒の発言を単語の形ではなく丁寧に書くように意識した。

終末の説話は、ゲストティーチャーとの打ち合わせを3回行った。1回目は「道徳の授業で命の大切さを考えさせたいので、3分程度の話をしてほしい」と依頼の趣旨を伝えた。2回目は、「長年生き物を育ててきた経験を話してほしいが、動物を育てた話に終始するのではなく、生命の連続性にも触れてほしい」と伝え、ポイントを箇条書きにしたメモも手渡しておいた。3回目には、試し撮りを数回行った。最初はメモを見ながらぎこちない様子であったが、特に強調してほしい部分を伝えると次第にご本人らしく語っていただくことができた。さらに、ゲストティーチャー自身が話の幅を広げ、「生き物を大切にしないと人間が困る」という具体例まで話していただいた。授業で映像を流すに当たっては少し短くすることがあることも承諾していただき、実際、具体例の部分については割愛した。しかし、「人間が一番偉いわけではない」というフレーズなど、生き物を育ててきた方の言葉には重みがあり、「生命の尊さ」を考える上で生徒に新鮮な感動を与えていた。